

実践報告

武蔵丘ハンドボールクリニック活動報告

The activity report of Musashigaoka Handball Clinic

高橋 琴美 高橋 こずえ

Kotomi Takahashi Kozue Takahashi

Abstract

武蔵丘スポーツクラブのスポーツイベント事業である「武蔵丘ハンドボールクリニック」における平成 28、29 年度の活動について報告する。これまでの課題である広報及び参加者募集の方法においては、近隣のチームから県内のチームに案内をしてもらっただけでなく、吉見町の小学校や武蔵丘スポーツクラブの各教室に通っている子どもたち、吉見町民体育館で案内を配布した。それによって参加者が増え、ハンドボール未経験の子どもの参加も見られた。より多くの未経験の子どもたちに参加してもらうため、事前に未経験者を対象とした教室の開催なども含めた、より積極的な教室活動について検討が必要である。またハンドボールクリニックに参加後、継続してハンドボールができる環境を作っていくことも重要な課題と考えられる。もう一つの課題である開催時期については 7～8 月は日程調整が難しいため 10～1 月の開催とし、親子クリニックと中学生クリニックの 2 回の開催として継続していきたいと考えている。平成 28 年度でスポーツ振興くじ助成が終了し、平成 29 年度からハンドボールクリニックは武蔵丘スポーツクラブの自主運営となったため、参加費の見直しなど運営についても再検討が必要となったが、いずれのハンドボールクリニックも参加者から大変好評を得ており、補助員としてサポートする学生にとっても貴重な機会となるため、今後も改善しながら継続していきたいと考えている。

Key words : 武蔵丘ハンドボールクリニック、コミュニケーション能力、指導法、武蔵丘スポーツクラブ

I はじめに

武蔵丘スポーツクラブ（以下、武蔵丘 SC）では、武蔵丘短期大学（以下、本学）の施設を利用し、スポーツイベント事業の一つとして平成 24 年から「武蔵丘ハンドボールクリニック」（以下、クリニック）を開催している。このクリニックは、埼玉県内に拠点を置く日本トップチームである大崎電気ハンドボール部（OSAKI OSOL）の協力の下、子どもたちにハンドボールに触れる機会を提供し、ハンドボールを通してコミュニケーション能力の向上を図るプログラムを実施している。また本学学生においても、子どもたちと一緒に活動することでコミュニケーション能力を養い、ハンドボールの指導法について学ぶ機会として参加し、これまでも実施内容について報告してきた¹⁾²⁾。前回の報告では、開催初年度からの課題として 1) 広報及び参加者募集の方法の検討（特にハンドボール未経験の子どもたちの参加を増やしていくこと）、2) 開催時期及び開催回数の検討を挙げた。本報告では、その後の課題についての取

り組みと、プログラム実施内容について報告する。

II 平成 28 年度

1. 事前準備

講師は大崎電気ハンドボール部の選手と NTS インストラクターである山口たまき氏にお願いし、選手の試合がない時期で開催することとした。対象者及び内容は大きく変更せず、平成 27 年度と同様とした。

課題となっている広報及び参加者募集の方法は、親子対象のクリニック（以下、親子クリニック）においては、近隣の小学生チームに案内をするだけでなく、そのチームから県内の他チームの代表者にクリニックの開催案内を伝えてもらうことで、これまでよりも多くの人に広報することができた。またハンドボール未経験の子どもたちの参加を増やす方法として、吉見町内の小学校で全児童にクリニックの開催案内を配布した。さらに武蔵丘 SC が実施している他のスポーツ教室参加者に対しても開催案内を

配布した。中学生対象のクリニック（以下、中学生クリニック）においては、これまで同様に近隣の中学校及び春日部市の豊春中学校に声をかけ、日程を調整した。

クリニック当日の救急体制においては、できるだけ本学オープンキャンパス開催日と重ね、クリニックスタッフと学生、及び本学事務職員で対応できるようにした。

クリニックの補助員としてハンドボール部員の学生が参加し、クリニックの事前準備及び運営サポートに携わる場を設けた。特に親子クリニックでは、参加者が小学生のみ、あるいは保護者 1 名小学生 2 名以上の参加の場合は、学生が保護者役で参加した。

2. 開催時期、参加者数と講師

開催時期と参加対象者および人数は表 1 の通りである。親子クリニックは夏休みの親子イベントとしての開催を考えていたが、講師である大崎ハンドボール部の予定と本学の予定が合わず 10 月開催とした。開催時期が遅くなったため、参加者が少なくなることを心配したが予想以上の申込となり、申込締切前に事前に設定した 20 組 40 名の募集人数に達したため、申込を断ることになった。またハンドボール未経験者の参加申込があった。中学生クリニックは日程調整の関係で 1 月開催となったが、これまでで最多となる 3 校 40 名の参加となった。

表 1 平成 28 年度開催日時及び参加者

	日 時	参加者	人 数
第 1 回	10 月 1 日（日） 9 時 30 分 ～12 時 30 分	小学生とその保護者	17 組 38 名
第 2 回	1 月 14 日（土） 9 時 30 分 ～12 時 30 分	春日部市立豊春中学校 春日部市立大増中学校 東京農業大学第三高等学校 学校付属中学校	24 名 11 名 5 名

なお、各回の講師は次の通りである。

第 1 回：東佑三選手、夏山陽介選手、植垣健人選手

第 2 回：山口たまき氏、東佑三選手、時村浩幹選手、小澤広太選手

3. 内容

講師である大崎電気ハンドボール部の東佑三選手を中心にクリニックを進行した。親子クリニックでは、これまで同様に親子、仲間とコミュニケーションをとり、協力し合うことを重視した内容で展開した。クリニックの最後には試合を行い、その中で大崎電気ハンドボール部の選手と一緒にプレーする時間を設けた。

中学生クリニックでは、全体でのウォーミングアップを 30 分程度行った後、コートプレーヤー（CP）とゴールキーパー（GK）に別れ、ポジション別練習を行った。ポジション別練習では、講師の指導の下、それぞれの専門的な練習を行った。ポジション別練習後は再び一緒にコート全体を使った練習を行った。中学生クリニックにおいても最後には試合を行い、その中で大崎電気ハンドボール部の選手と一緒にプレーする時間を設けた。



写真 1 親子クリニック



写真 2 中学生クリニック（GK 練習）



写真 3 中学生クリニック (CP 練習)

Ⅲ 平成 29 年度

1. 事前準備

平成 28 年度で武蔵丘 SC へのスポーツ振興くじ助成が終了し、平成 29 年度からは全てのスポーツイベント事業を武蔵丘 SC で自主運営することとなった。そのため、このクリニックも運営費の再検討が必要となり、講師は大崎電気ハンドボール部の選手のみをお願いした。参加費についても大幅な見直しを行うことになり、参加者募集にご協力いただいているチームの方々には、参加費見直しについて了承を得ながら進めることとなった。

広報活動は昨年度同様に行ったが、吉見町の小学校で開催案内の配布ができなかったため、新たに吉見町の町民体育館で開催案内を配布することにした。

また、昨年度のクリニックは参加者が多く、講師から「特にポジション別練習を行う中学生は、コートが 2 面取れる体育館などで実施する方が良いのでは」とのアドバイスをいただいた。そこで平成 29 年度は会場を本学体育館と限定せず、吉見町民体育館での実施も検討し、日程調整を行った。

クリニック当日の救急体制は昨年同様に行った。クリニックの補助員として参加している学生はハンドボール部員及び健康スポーツ演習（ハンドボールゼミ）を履修している学生とし、クリニックの事前準備及び運営サポートに携わる場を設けた。親子クリニックでは、昨年同様に参加者が小学生のみ、あるいは保護者 1 名小学生 2 名以上の参加の場合は、学生が保護者役で参加した。

2. 開催時期、参加者数と講師

開催時期と参加対象者および人数は表 2 に示した。親子クリニックは当初夏休みの親子イベントとして 7 月 30 日の開催で進めていたが、日程決定のタイミングが遅れたことが影響し、参加者が集まらなかったため、10 月開催に変更した。第 2 回の中学生クリニックは日程調整により 1 月開催となったが、各中学校の学校行事等もあり、参加校が 1 校となった。さらにインフルエンザが流行し、申込人数よりも当日参加人数はかなり少なくなった。

表 2 平成 29 年度開催日時及び参加者

	日 時	参加者	人 数
第 1 回	10 月 29 日 (日) 9 時 30 分 ～12 時 30 分	小学生とその保護者	15 組 20 名
第 2 回	1 月 20 日 (土) 13 時 00 分 ～16 時 00 分	春日部市立豊春中学校	13 名

なお、各回の講師は次の通りである。

第 1 回：東佑三選手、岩永生選手、小山哲也選手
第 2 回：東佑三選手、小室大地選手、芝山裕貴博選手

3. 内容

講師である大崎電気ハンドボール部の東佑三選手を中心にクリニックを進行した。親子クリニックでは、昨年同様に仲間とコミュニケーションをとり、協力し合うことを重視した内容で展開した。クリニックの最後には試合を行い、その中で大崎電気ハンドボール部の選手と一緒にプレーする時間を設けた。中学生クリニックでは、全体でのウォーミングアップを 30 分程度行った後、コートプレーヤー (CP) とゴールキーパー (GK) に別れ、ポジション別練習を行った。ポジション別練習は昨年より時間を長く取り、講師の指導の下、それぞれの専門的な練習を行った。ポジション別練習の後は再び一緒に練習を行い、コート全体を使った練習を行った。今回の参加校は 1 校のみで参加人数も少なかったことから、試合は行わず練習のみでクリニックを進めた。



写真4 親子クリニック



写真5 中学生クリニック (GK練習)



写真6 中学生クリニック (CP練習)

IV 今後の課題

このハンドボールクリニックは、仲間との協力、コミュニケーション能力を養うことを重視し、毎年内容は大きく変えず継続している²⁾。特に親子クリニックは武蔵丘 SC で開催するハンドボールクリニックの特徴であり、親子でハンドボールを楽しむこ

とを重視した内容で展開している。技術指導となる内容は少ないものの、参加者からも親子で楽しめるクリニックとして好評である。また、中学生クリニックにおいては、基本的な練習内容だけではなく、ポジション別の技術練習を取り入れることで個々のレベルアップが図れる内容を組み込んでいる。参加者からは現役選手に直接指導してもらえると大変好評を得ている。よって今後もこの内容で継続をしていきたいと考えている。

これまでのクリニック開催の課題において 1) 広報及び参加者募集の方法の検討、2) 開催時期、及び開催回数の検討の 2 つが挙げられた。

1) 広報及び参加者募集の方法においては、親子クリニックでは、これまで同様に近隣チームの代表者の協力を得て、小学生チームの大会等で県内の他チームの代表者にクリニック開催の案内をお願いしたが、ハンドボール未経験者にも参加してもらえよう、吉見町の小学校や武蔵丘 SC の参加者、吉見町民体育館で案内を配布した。それにより平成 28 年度は受け入れ人数制限をするほど多くの参加申込があり、ハンドボール未経験者の参加もあったが、ほとんどの参加者がハンドボール経験者だった。年度によって参加者数が大きく変動するが、ハンドボール経験者だけでなく、ハンドボール未経験者にも参加してもらうためには広報活動の工夫だけでなく、まずはハンドボール未経験者を対象に「ボール投げ教室」を実施し、その教室に参加した子どもたちに親子クリニックを案内するといった積極的な教室活動の展開が必要であると感じている。さらにクリニック参加後、継続してハンドボールができる環境を作っていくことも今後の発展のためには重要な課題であると考えている。中学生クリニックにおいても、使用する体育館の規模により、受け入れ人数が制限される。特にポジション別練習を行う中学生クリニックにおいてはコート 2 面を使用の方が効率的である。そのため、平成 29 年度は吉見町民体育館を会場としてクリニックを開催することも検討した。しかし、吉見町民体育館を利用する場合、ハンドボールゴールの移動・設置、事前のコート作成などの準備が必要となる。平成 29 年度は参加校が 1 校であったため、これまで通り本学体育館を利用して開催したが、今後は親子クリニックも含め、参加人数

によって会場を変更することも検討する必要があると考えている。

2) 開催時期、及び開催回数については、年 2 回で 7 月～1 月の開催となっている。親子クリニックにおいてはできるだけ 7 月に開催したいと考えているが、各家庭の夏休みの計画等を考えると、かなり早い時期に日程を決める必要があり調整が難しい。よって今後は 10 月～1 月の時期に 2 回開催することで調整し、クリニック開催前にハンドボール未経験者を対象とした「ボール投げ教室」の実施を検討していきたい。

スポーツ振興くじ助成の終了に伴い、平成 29 年度から全てのスポーツイベント事業が武蔵丘 SC での自主運営となったため、このクリニックも参加費から全ての運営費を精算することとなった。そのためこれまでと同じ参加費では運営費が不足するため、参加費の大幅な見直しが必要となった。幸いにも参加者の理解が得られ、大きなトラブルなくクリニックを運営することができたが、今後は参加者の確保がクリニック開催に大きく影響することになるため、広報活動及び開催時期については余裕を持って準備できるよう取り組む必要があると考えている。

学生補助においては、平成 28 年度は、本学ハンドボール部員、平成 29 年度は本学ハンドボール部員及び健康スポーツ演習（ハンドボールゼミ）を履修している学生にもクリニックの運営・サポートに携わる場を設けた。これはハンドボール部員だけでなく、できるだけ多くの学生に学ぶ機会となっている。特に健康スポーツ演習の学生の中にはアスレティックトレーナーの勉強をしている学生もあり、ハンドボールの指導法だけでなく、救急体制など必要な準備について事前に役割分担を決め、運営・進行について確認したことで、それぞれができる範囲でクリニックのサポートについて考え取り組むことができ、貴重な経験にすることができた。ハンドボール部の学生においてはこれまで練習したことを活かし、現役選手と一緒に子どもたちの指導を行うことでコミュニケーション能力を養うとともに、指導法についても学ぶ機会にすることができた。このようなクリニックが続けられるのも、大崎電気ハンドボール部の協力によるものであるが、参加者だけではなく補助員として手伝っている学生にとっても貴重

な機会となっていることから、今後もさらなる改善を続けながら、武蔵丘ハンドボールクリニックを継続させていきたいと考えている。

V 謝辞

この武蔵丘ハンドボールクリニック開催にあたり、山口たまき氏、大崎電気ハンドボール部、及びご協力いただいた皆様に感謝いたします。

【参考文献】

- 1) 高橋琴美、高橋こずえ：武蔵丘ハンドボールクリニック活動報告、武蔵丘短期大学紀要 23、pp.79-82、2016
- 2) 高橋琴美、高橋こずえ：武蔵丘ハンドボールクリニック活動報告、武蔵丘短期大学紀要 24、pp.41-44、2017